

1. デジタルインフラは「交通」と同様に多様な施設のセット／ネットワークで構成
 - DC + ネットワーク、電力、海底ケーブルetc.
 - 保守・メンテの人材・技術力や交通・通信など高度な都市インフラの上に成立（特にハイパースケール）

2. デジタルインフラの充実が都市の成長の肝
 - グローバル都市間競争では“AI実装”が前提
 - AI、ハイテク、バイオ関連産業の苗床

3. 日本の場合、デジタル関連産業の大阪／関西のポテンシャルは甚大
 - すでに大阪にDCが集積。さらにバンドワゴン効果
 - 企業はますます関西のBCP体制を充実
 - 東日本の電力制約という現実

4. デジタルインフラ充実の重要タイミングは今から向こう5年程度と思われる
 - 5年以内に既存インフラのキャパが不足
 - 国境を越えた都市間競争の時代へ

5. 大阪／関西はアジアの他地域に先行して「立地環境」、「やる気」、「支援体制」をそろえ内外に発信することが重要

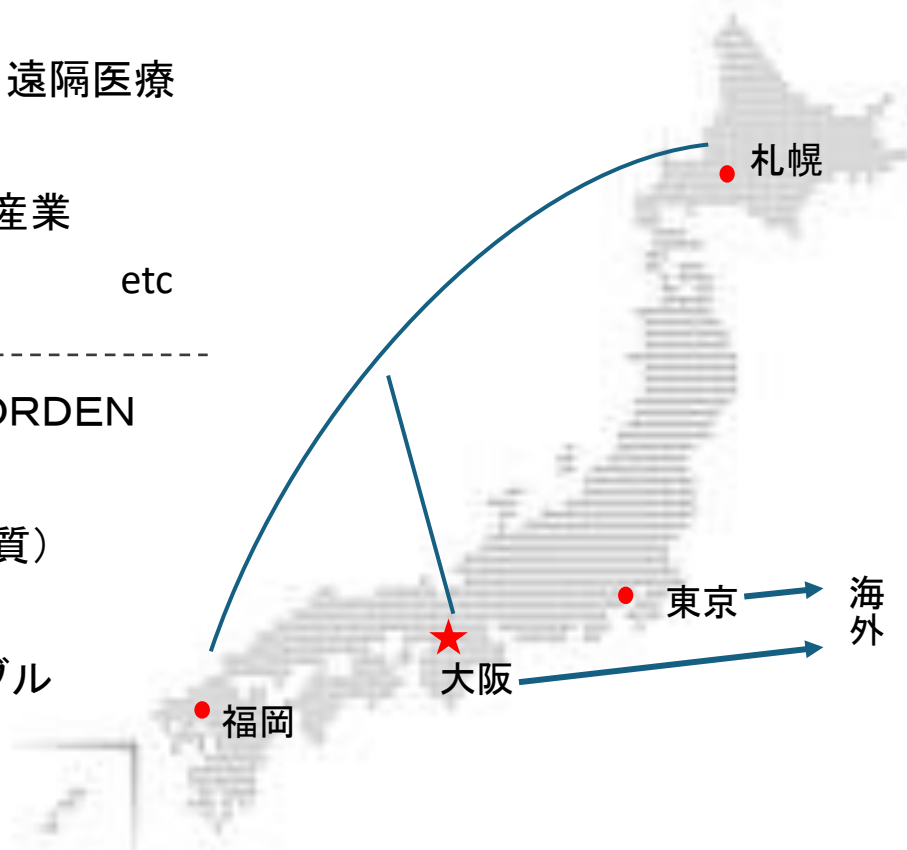
副首都構造と@デジタル地政学

大都市大阪のバージョンアップ

- スーパー成長産業
シティ
- 自動運転、遠隔医療
 - 国際金融
 - AI 駆動型産業
 - BCP機能 etc

- デジタルインフラ
- 都市OS/ORDEN
 - DC
 - 電力(量と質)
 - 通信
 - 海底ケーブル

デジタルネットワーク



デジタル地政学

- ・ネットワークで全国をバックアップ
- ・常時稼働の前提
- ・デジタルインフラをめぐるグローバル都市間競争 etc

大阪の優位性

- ・企業BCP集積
- ・DC集積
- ・電力
- ・副首都 etc